

第1回鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定委員会 議事要旨

日 時：令和2年6月2日（火）

14:00～16:00

場 所：鳥取市役所本庁舎6階第6～8会議室

□配布資料

- 資料1 鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定委員会名簿、配席表
- 資料2 鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定委員会設置要綱
- 資料3 鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定委員会会議資料（第1回）
- 資料4 鳥取駅周辺の賑わい創出に関する基礎調査報告
- 資料5 鳥取駅周辺の賑わい創出に関する基礎調査（概要版）
- 資料6 鳥取駅北口交差点交通実態調査結果
- 参考 第10次鳥取市総合計画（概要版）
- 参考 鳥取市都市計画マスタープラン
- 参考 鳥取駅周辺再生基本構想（平成23年～令和2年度）
- 参考 第3期中心市街地活性化基本計画（概要版）

□次第

1. 開会

2. 鳥取市長あいさつ

3. 委員、出席者紹介

4. 委員長、副委員長選出

ア. 中山委員が委員長に、大平委員が副委員長に選出された。

5. 委員長あいさつ

ア. 鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定委員会は設置要綱第9条に基づき、公開のもと進めることで合意した。

6. 報告・協議事項

ア. 事務局より、資料3に基づき、構想策定の背景、構想策定の概要及び論点整理について説明。

7. 意見交換

委員長：事務局からの報告では、バスターミナルなどの具体的な考え方も示されたが、これらに関して委員からの意見を伺いたい。

委員：10年以上、新鳥取駅前地区商店街の理事長を務めているが、その間に状況は大きく変化した。1990年代後半の大店舗法の撤廃により全国的に商店街は衰退したが、その頃は、元気なところもあった。しかし、平成21年に整備完了した鳥取環状道路により市の中心部を経由しなくても移動ができるようになり、中心部の自動車交通量が大きく減ってきている。こういった背景の中、第1期構想策定委員会で、歩行者優先のまちをつくるという流れとなり、「歩いて楽しい」歩行者優先のま

ちづくりが進められ、今に至ると認識している。また、バード・ハットの整備により、車道4車線を2車線に縮小し、芝生広場を整備したこともこの方針の一環と捉えており、今後は横断歩道やバスターミナルも含めたエリアのゾーニングなどを再度検討する必要があると考えている。新型コロナウイルス感染拡大（以下、「新型コロナ」という。）の影響により、考え方も変わってきている。これまで規制に縛られてできなかったオープンカフェや芝生広場の活用などはこれを好機と捉え、横断歩道も含めて規制緩和の方向にもっていけないかと考えている。鳥取市は周辺の松江市や米子市と比較して、駅前エリアの地価が高いことが特徴的であることから、駅周辺の土地活用や再生事業が重要である。地域に潜在する宝を発掘しながらこれを実現してほしい。

委員長：今後の議論を通じて、追加すべきことや課題なども出てくるかと思う。新型コロナで考え方が変わってきているとの発言があったが、本構想のなかにもその考え方を盛り込む必要があると考えている。例えば、外国人旅行客数が以前のように戻るまで3～4年はかかるのではないかと感じている。それまでの間、どう耐えるかなど、まちづくりに盛り込んでいく必要があると考えている。オブザーバーから、道路使用に関する規制緩和について今後の動きなどがあれば教えてほしい。

オブザーバー：この場で、具体的にどの規制を緩和するという発言は控えたい。計画、法令等に従いながら、何ができるかを検討することが必要だと考える。具体的に相談してもらえれば対応する。横断歩道の件では、交通量が増えれば当然交通渋滞が発生するという課題もあり、これらの課題を抽出して、今後どのように解消するのかを検討する必要がある。鳥取市の目指す賑わいづくりには賛同している。本委員会は、こういった課題をどう解決するかを議論する場と認識しており、協力したい。

委員長：バスターミナル再整備について、バス事業者からも意見を伺いたい。

委員：第1期基本構想検討時からいろいろ意見があり、最近では、利用者からバスターミナルの老朽化が酷く、薄暗いとの意見を頂く。鉄道利用者からは、鳥取砂丘に行きたいが、バスターミナルに行くにはどちらに行けば良いかという問い合わせが多く、駅を出た後の案内が分かりにくいのご指摘も頂く。現在バスターミナルは、並木の奥（西側）に位置しているが、駅の出口近くの分かりやすいところであれば良いと思っている。また、駅からバスターミナルへ行くには屋根があれば一番良いが、少し歩く距離が長い。横断歩道を渡って来る人、シャミネから来る人がおり、動線もはっきりしない。ケヤキ並木もきれいで良いが、動線や視認性についても考慮いただければ、バスターミナルに足が向くのではないかと考えている。

委員長：動線や建物の老朽化の対策も含めて、改善が必要との意見と理解した。観光案内板等についても意見を伺いたい。

委員：駅観光案内所での問い合わせの7～8割はバスターミナルの位置に関してである。鳥取砂丘に行くには、どこでバスを待てば良いのか、どこにバスターミナルがあ

るのかという問い合わせが多く、間に公園があるせいか遮断されてしまい、バスターミナルの位置がわかりにくいとの意見が多い。また、現在の観光案内板は駅構外、構内ともに設置されているが、改札を出てから目につきにくいという声が多い。

委員長：案内しやすい位置等についても検討したい。タクシーについてはどうか。

委員：タクシーについては、駅の南北どちらの出口にもタクシープールがあり、利用しやすいと思う。今後バスターミナルや観光施設は利用者の利便性や分かりやすさを考慮して配置換え等もあるかと思うが、現状ではタクシーの利用はしやすいと考えている。

委員長：駅から見た駅前のある方について、鉄道事業者の意見はどうか。

委員：案内がわかりにくいということが課題であると考えている。利用者は、駅の位置は分かるが、そこから先の案内が分からないと感じているのではないかと思う。そこで、駅周辺の案内サインを統一的なデザインで、一体的に整備するのはどうかと考えている。駅への案内も含め、ユニバーサルデザインを取り入れた案内サインについて検討してはどうか。

委員長：ユニバーサルデザインというキーワードも挙げられたが、今後はバスターミナルと駅をシームレスにつないでいくという点も議論したい。バスターミナル整備に関する全国的な動きについて、参考となる事例があれば教えてほしい。

オブザーバー：全国的にバスターミナルの整備は進んでおり、例えば新宿駅のバスターミナルは、老朽化と周辺の渋滞などの課題を解決し、利便性を高めるために再整備されている。この近辺でも、呉市において、駅前の整備とともに、バスターミナル、鉄道、タクシー乗り場を一体的に周辺の商業施設とうまくリンクさせて賑わいづくりの場所をつくろうとの動きも出てきている。また、MaaS（マース）は、スマートフォン等のモバイル端末で移動経路の検索からタクシーやバスの予約、支払いまでを一括で行えるシステムである。これを導入することも考えられるが、それに向けてはバスターミナルをより利用しやすいものにする必要があると考えられる。今後もこの場での議論に必要な情報の提供などを行っていきたいと考えている。

オブザーバー：バスターミナルの老朽化は、多くの地方都市で課題となっており、再整備の動きが出てきている。再整備にあたっては、コンビニエンスストアやコミュニティスペースを併設し、利用者がバスを待っている間に快適に過ごせるスペースとする事例や、観光案内所を併設する事例もある。駅前で何ができるかについて、皆さまと議論していきたい。

委員長：次に、駅前北口の横断歩道の設置についてはどうか。

委員：駅前のバスターミナル、タクシープール、平面横断歩道はセットでゾーニングを考える問題であるということが大前提である。今から40年ほど前に駅前からサンロードに向けて横断歩道を設けるかどうかの議論があった際は、地下通路を設ける代わりに平面横断歩道は設けないという約束があった。しかし、その後の社会情勢も大きく変化し、この条件は市民からの要望等があれば、変えることができ

るといふ話も聞いている。駅と大丸と商店街が道路で3分割されていることが鳥取の街の最大の欠点と捉えており、サンロードに向けて平面横断歩道を設置することが一番手っ取り早い方法ではないかと考えている。10年ほど前に、平面横断歩道を2週間だけ設置する社会実験を行ったことがあった。社会実験は、歩行者には好評だった一方、交通渋滞や一方通行の問題があった。課題も踏まえながら良い案があればこの会でも出してもらい、検討していければと考えている。

委員長：当時から社会情勢も変わってきている。新しい必要性が生まれているのではないかと思う。駅前と商店街をつなぐ必要性だけではなく、平面移動ができることでバリアフリーや福祉といった観点からの必要性もあるのではないかと思う。その観点から委員の意見を伺いたい。

委員：駅前周辺にベビーカーを押して子どもと散歩に行くことがあるが、歩道がガタガタして歩きにくいなど、バリアフリーになっていないと感じる。車いすの利用者もこういった点で困っている方が多いのではないかと思う。また、別の観点から、本日の会議資料が作成されたのは新型コロナ以前であるためか触れられていないが、今後は「アフターコロナ」の時代にどのようなまちづくりを行っていくかを考えていく必要があると感じている。保育の現場では、今後どうウイルスとつきあって生きていくかについての教育を行っている。まちづくりにもこの考え方が必要であり、今までとは違う考え方を持った都市整備が必要であると感じている。

委員長：新型コロナの関係で、これまでの効率優先、密の経済から疎の経済になることで、ビジネスモデル等も変わってくると思うので、まちのあり方や、まちに求めるものも、それに合わせ変えざるを得ないと感じる。新型コロナに関しては、ワクチンの開発などにより状況が変わることも考えられる。先のご意見も踏まえ、事務局と一緒に協働したい。次に、横断歩道が人の誘導にどのような影響を与えるかについて、意見を伺いたい。

委員：現在、駅北口交差点には横断歩道と地下道の2つの選択肢があるが、実際に歩いてみると、雨天時は、どちらも厳しく、また、思ったほどバリアフリーに対応していないと感じる。これは、駅には人が来るが、市街地の賑わいにつながっていない要因の一つではないかと考えている。

委員長：平面横断歩道については今後議論を深めたい。次に、アミューズメント機能の充実に関する意見を伺いたい。

委員：アミューズメント施設といえば、新型コロナの影響で厳しい状況下にあるものの、映画館は重要と考えている。(県立美術館の倉吉への建設に伴う県立博物館の美術館機能の移転により)間もなく鳥取市、鳥取東部圏域から美術館機能がなくなるが、今後、圏域全体で美術館機能をどう扱うか検討等行うことも大事である。かつて社会教育施設の位置付けであった美術館は、近年、アミューズメント機能を担う施設と捉えられている。一方、駅周辺の駐車場機能の不足も課題であると考えている。駅は公共交通の結節点となっているが、マイカーの結節点となっていないことが地方都市にとって大きな課題であると考えている。また、風紋広場、

ケヤキ広場等は県有地となっているが、これをもっと積極的に有効利用できないかと考えている。バード・ハットの広場機能を強化しつつ、風紋広場の必要性についても考える必要がある。これらの検討を通じて、駅北側の問題解決の糸口にしていけばと思う。民藝美術館も駐車場がないことが問題で、インバウンド客も近年はレンタカー利用である。駅周辺が元気になることが、街全体が元気になることと確信している。

委員長：美術館も含めアミューズメント施設の一つになると思われる。県内では自動車の移動は避けて通れない。歩いて楽しいまちだが、そこに行くまでは自動車で行かなくてはいけない。駐車場の不足という課題についても基本構想に盛り込んでいきたい。広場の活用に関する取組みはどうか。

委員：現在まちにあるものを膨らませることで賑わいを創出できないかと考えている。鳥取駅周辺には多くのオープンスペースがあり、風紋広場では全国的にも珍しい民間によるスペースの時間貸しを行っているなど活用地盤はあるものの、広く周知されていない。また、民間の広場活用に向けた手助けが難しいという状況がある。協議会では昨年度、キッチンカーの利用者が風紋広場に留まり、街の賑わいにつながる仕掛けとして、日除け付きのベンチを風紋広場に実験的に設置した。ケヤキ広場やバード・ハットでも同じことが可能であると考えている。「見える賑わい」をつくるのがオープンスペースの役割だと思う。三密を防ぎながら賑わいをつくるためには、佐賀市、仙台市の例のように、オープンスペースの活用を促進することが有効と考えている。ハード整備というよりは、どのように使うかという観点で、使いやすさや役割などをオープンスペースに付加できればと考えている。

委員長：アミューズメント施設について、若者を代表して、こういう機能があれば良いという意見があれば伺いたい。

委員：アミューズメント機能について、自身と一般の大学生の感覚は少し違うと思うので、分けてお話ししたい。鳥取大学を含む大学生の多くは県外出身者であり、自身の出身地と鳥取を比較してアミューズメント機能が少ないとの意見が多く出ているのではないかと推測している。大学生のイメージするアミューズメント機能とは、ラウンドワンなどの複合型施設やゲームセンターなどの施設を思い浮かべるのではないと思う。一方、私は鳥取市にはそういった機能は不要だと考えている。大学入学時から学年が上がるごとに、鳥取の楽しみ方を見つけられるようになった。カフェ巡りや、海で釣りをしたり、山に出かけたりして楽しんでおり、わざわざ大きな商業施設を呼ぶ必要までないと思う。一方、鳥取は自動車中心の社会だが、学生は公共交通と自転車を利用することが多い。学生が利用しやすいように充実してもらいたい。自転車に係る施設整備等行くと、学生の利便性は向上するのではないと思う。

委員長：アミューズメント機能にはいろいろな考えがある。自転車が重要という話が出たが、持続可能な社会にむけて、この考え方も取り入れる必要があると感じた。商

店街にとって必要な施設は何か。市民アンケートでは映画館やレジャー施設が欲しいという意見もあったが、どう考えているか。

委員：私もアミューズメント施設はそこまで必要ないと思う。あってもすぐに飽きてしまうのではないかと考えている。豊かな自然も鳥取にはあるので、自転車で回遊するようなものを進める方が良いのではないか。末広温泉町商店街は、飲食店が多く、インバウンドや地元の方に愛されている商店街であり、空き店舗もほとんどなく会員数も増えている。新型コロナの影響を受けながらも、テイクアウトなどの新たなビジネスも生まれてきている。一方で、ごみ収集の問題を懸念している。ごみの収集ができないことがあった。環境の改善等を行い、快適ですばらしい商店街、中心街として、県外の人にも見ていただけるようにしたい。

委員長：ハードとソフト両面から、住みやすく、環境が良く、魅力的な地区となるような基本構想をつくっていくことが必要ではないかと考える。本通商店街からの意見はどうか。

委員：鳥取市にはシネマコンプレックスを整備できない規制があると聞かすが、これは損ではないか。映画を見たい人は日吉津など市外に出なくてはいけない。鳥取市としての考えを教えてください。

事務局：シネマコンプレックスについては、一部エリアに都市計画上の規制が設けられているが、全市域で設置できないわけではない。今回対象としている駅周辺には当該規制は敷かれていない。

委員：鳥取市の旧本庁舎跡地の活用についてはどのように考えているのか。

事務局：旧本庁舎の跡地については、専門家による検討委員会を立ち上げ、今後2年間かけて検討する予定である。

委員：美術館という意見もあったが、美術館を整備する場合、開館後も展示品を入れ替えていく費用等が必要であり、何度も通ってくれるリピーターがつくかが課題になる。市民の美術館の利用に関する統計はあるか。

委員長：今後、必要に応じて資料を提供することで対応していただきたい。バス事業者からはどうか。

委員：新型コロナはバス事業にとっては大きな痛手であった。バスターミナルを改修し、再整備するという考えもあるが、バス会社はその費用を負担するのは難しい。必要性に対して、可能なことは何かを考えていく必要がある。

委員長：バスターミナルについては、必要性だけでなく、整備手法、役割分担等についても検討していく必要があると考える。実施計画につながる基本構想とするべきであり、既存の制度などについても整理し、実現にむけて議論したい。オブザーバーからの意見も踏まえて、どう盛り込むか等相談させてもらう。次に、駐輪場や駐車場、快適な歩行空間についてはどうか。

委員：これまでは、計画が先にできている段階で意見照会があり、なかなか計画に意見が反映されないという印象があった。意見を取り入れた上で策定していただきたい。

委員：住民の視点から話をする立場かと思うが、商店街にシャッターが目立つことが気がかりである。また、自転車の不法駐輪の監視員をしているが、歩道上の不法駐輪等はあまり多くないという印象である。気になることとして、駅前の地下通路のエスカレーターの遅さが挙げられる。安全のためなのか病院のエスカレーターより遅い印象である。また、中央郵便局の東側高架下に細長い公園（高架記念公園）があるが、地区の住民から防犯上の観点から改善の要望があり、これについても対象区域に入るのなら検討してほしい。

委員長：これまでの取組みと課題認識を共有し、これらの課題に対する対応策をつくっていくのが基本構想になる。他に、やるべきこと、課題と思われることについては、遠慮なく意見を頂きたい。この委員会で議論していきたい。

事務局：委員から指摘のあった高架記念公園は対象区域の境界付近にあたるが、場合によっては基本構想の中に盛り込むことも可能と考えている。

委員長：地下通路のエスカレーターについては、整備当時に身障者対応でスピードの出ない仕様としていた記憶がある。詳細は県に確認してみる。次に、駅周辺の役割について、生活圈や交通網の整理などの現状を踏まえ、今後どのような将来像が描けるか、ご意見を伺いたい。

委員：10年前の第1期基本構想の策定にも関わっていた一人であるが、10年先の今の状況が当時どの程度見据えられていたかを問うてみると、その当時は目の前の課題や要望、要求に答えるのに精一杯だったという印象である。将来のまちはどうかと問われると、行政主導の事業は確実に進んでいる一方で、期待していた民間主導の事業が思うほど進まなかったというのが前期の総括であり、反省点ではないかと思う。夢見がちな計画では実行性が低く、同様の総括が繰り返されてしまうことが懸念される。新型コロナの影響も踏まえて、暮らしにくさ、使いにくさ、歩きにくさなどの「生活しにくさ」を一つひとつ解決していくことを積み上げていけば、良いまちになるのではないか。要望レベルではなく、豊かな暮らしを想定した上で、例えば文化的な生活を行う上で必要なものが身近なところ、アクセスしやすいところがないなど、利便性なども併せて考えていくことが必要ではないかと考える。意向調査ではアミューズメント機能など分かりやすい意見に集中してしまうが、細かなところを積み上げて、きちんと皆さんで議論できればと考えている。

委員長：10年後のゴールを明確にして目指していくことが必要ではないかと考える。次期基本構想には、具体的な事業を盛り込むことも大事なことだが、市民の生活や暮らしの中で駅前がどのような役割を担っていくのかという理念を考えていくことが必要だと考えている。ウォークブル推進都市などの新たな考え方も踏まえ、次世代に引き継ぐため、将来どのような駅前をつくっていくかを明確に示すための議論を行っていきたい。今回伺った意見を取りまとめ、資料等を見直していただきながら、次につなげていただきたい。

8. その他

ア. 事務局より、今後のスケジュールについて説明。

9. 閉会

(以 上)